

子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）の定期予防接種について

1、子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）の効果とは

○子宮頸がんの95%以上は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因です。子宮頸部に感染するHPVの感染経路は性的接触と考えられています。HPVはごくありふれたウイルス（200種類以上のタイプがある）で、性交渉のある女性のうち50～80%はHPVに感染していると推計されています。HPVワクチンに感染してから子宮頸がんへ進行するまでの期間は、数年～数十年と考えられます。HPVに感染した女性の一部では、感染細胞が異常な形に変形して、前がん病変（異形成）を発症します。発がん性ヒトパピローマウイルスの中で、とくにHPV16型、HPV18型は前がん病変や子宮頸がんへ進行するスピードも速いと言われています。

○HPVワクチンを接種することで、HPV16型とHPV18型の感染を予防できると言われています。

（1次予防）

○子宮頸がんの早期発見・早期治療のために、ワクチンを接種していても、していなくても、20歳になったら、2年に1回の子宮頸がん検診を受けてください。（2次予防）

2、予防接種の副反応とは

○多くの方に、接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。筋肉注射で行うため、痛みが強いと感じる方もいます。

○ワクチンを受けた後に、まれですが、重い症状が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動といった多様な症状が報告されています。

○ワクチンが原因となったかどうか分からないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり5人です。

3、接種対象者

小学校6年生～高校1年生相当の女子（12歳となる年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間）

4、費用

定期予防接種のため無料です。

5、接種方法

※接種を希望される方には予診票を送付します。

国頭村福祉課（41-2765）または国頭村保健センター（41-5767）までお問い合わせ下さい。

<ワクチンの種類>

・ **2価（サーバリックス）**：子宮頸がんを引き起こす原因の60～70%を占めるヒトパピローマウイルスのうち、HPV16型と18型の感染を防ぎます。

○標準的な接種方法：1か月あけて2回、初回1回目から6か月以上あけて1回接種。合計3回、同じ種類のワクチンを筋肉内注射。

・ **4価（ガーダシル）**：子宮頸がんを引き起こす原因の60～70%を占めるヒトパピローマウイルスのうち、HPV16型と18型の感染を防ぎます。また、尖圭コンジローマ（性感染症で良性のいぼ）の原因の90%を占めるヒトパピローマウイルスのうち、HPV6型・11型の感染を防ぎます。

○標準的な接種方法：2か月あけて2回、初回1回目の接種から6か月以上あけて1回接種。合計3回、同じ種類のワクチンを筋肉内注射。

<厚生労働省の相談窓口>

HPV ワクチンを含む予防接種、インフルエンザやその他感染症全般についての相談を受けています。

電話番号：03-5276-9337

受付時間：平日9時～17時（土日・祝日・年末年始除く）

※本相談窓口は、厚生労働省が委託している外部の民間業者に運営されています。